

木村榮遺品にあった木村榮手紙の特別展示と田中館愛橘と思われた写真の誤りについて

C13b

亀谷收, 舟山弘志 (国立天文台)

国立天文台水沢 VLBI 観測所には、前身の 1899 年創立の緯度観測所の頃から使用してきた歴史的な観測装置や建物が多数残されている。これらの一部は構内の木村榮記念館で展示されている。一方、木村榮初代所長のご遺族から手紙や写真類等多数の資料をお預かりしている。2013 年は、木村榮が 1948 年 9 月 26 日に亡くなってから 70 年に当たり、8 月 24 日の水沢地区の特別公開の機会に、木村が洋行時に妻と長男にあてた手紙資料の一部を特別展示した。その際偶然にも、これまで木村と共にその指導者の田中館愛橘が写っていると思われていた写真が、実は、田中館愛橘とは別人が写っていたことが判明した。

その写真は、1898 年から 1899 年にかけて国際緯度変化観測準備の為にドイツに木村が滞在した際に撮影した写真である。木村と一緒に写っていた人物は木村と共にドイツを訪問していた田中館愛橘とみなされていて、ここ約 20 年間に出版された書物にもその旨の記述が多数あった。しかし、今回、写真を詳しく調べたところ、田中館とは別な名前を示す文字「岸」と「鎌」が判読できた。その後、国立天文台アーカイブ室新聞に載せられていた寺尾教授在職満 25 周年祝賀会 (1909 年 6 月 5 日開催) の写真と参加者名簿を照らし合わせたところ、この人物が岸上鎌吉 (きしのうえかまきち) 博士であることが判明した。後に日本の動物分類学の基礎を作った動物学者・水産学者である。ドイツ滞在中に一緒に撮影したものと推定する。